



今月のインタビューは、
なべくら高原

ひぐらし農場

の木内晴基さんだぜい。



◆初海釣り。



実は、ほぼ初の海釣りでした。「ほぼ」というのは、本当の「初」の時は、一振りもせずに、竿を海の底に沈めたからです。落ちたのですよ、SUP（スタンドアップパドルボード）から。借りておいてナンですが、同級生が持ってきてくれたSUPは競技用？だったみたいで、求めてもないスピード重視のものでした。求めているのは安定です。SUPの上にクーラーボックスを置き、それを椅子にして釣りをする予定でしたから。ということで、こ

の日はリベンジだったわけです。ところが、同級生はまたしてもスピード重視と思われるものを持ってきました。わざとだろ！と言い続けましたが、前回の反省を生かし、かなり慎重に漕ぎました。そして、僕は潔くテラポットに上陸し、釣りをしました。それが奏功してか、思わぬ爆釣！「入れ食い」とはこのことで、サビキの仕掛けを投げるごとに、2、3匹同時にアジが上がり続けました。鯖も一匹釣れて、あれには興奮しましたね～！海釣り



の良いところは、何と言ってもそれを家で食べられること。その悪意の同級生、なおっさんに手ほどきいただき、アジフライ、刺身、塩焼きにして美味しくいただきました。……美味すぎますよ！自分で釣った魚は。ビールも日本酒もグングン進みます。子ども達も、いつにも増してムシャムシャと何匹も平らげました。見ているこっちが嬉しくなります。朝早くから海に出掛け魚を獲り、それを自分で調理して家族と共に食べる。この古来から何万年も変わらない人類共通の喜びは、現代に生きる我々にも、何にも変え難い時間を与えてくれます。海釣りにハマる人の気持ちがよくわかります。ちょっと沖の方まで行くと、普段はとても食べられないような高級魚も釣れるようなので、間違いなくまたチャレンジします。もちろん安定するSUPで。

◆ゴルフの楽しみ方。



この物語は不幸にしてシングルプレーヤーになった人々のためのものではない。初めて100を切れた日に神様に感謝したプレーヤーに、コンペの前夜は遠足前の子供のように眠れなくなるプレーヤーに、そして一度ならず二度とゴルフなどするものとクラブを投げつけたプレーヤーのために書いたものである。ゴルフは絶望の繰り返しであるとは、プレーヤーなら誰もが知っている。それでも私たちは、次の日曜日にはバッグを担いで近くの練習場に出かけていくのである。

昨年からすっかりハマってしまったゴルフですが、やればやるほど、ゴルフには無限の楽しみ方があると感じます。100人いれば100通りの楽しみ方…。さて、果たして何を持って「ゴルフ」なのでしょう？前夜にワクワクしながらクラブを磨いているあの時から？今日の反省点を「YouTube先生」に聞いている時間？「あの2打目、なんで池に入れてしまったんだ！」と、夕飯時に妻の話を上の空で聞いているあの時も？当然、悔しい時の方が多いわけですが、男を狂わせるこの厄介なスポーツ、これから長く楽しんでいこう、そう思わせてくれる一冊でした。

◆過酷、藪漕ぎ。

◆寺のポーズのよう。

いえ、本物です。ささやかながら、お盆の頃に同級会なるものを開催しました。今回は5人ほどしか集まりませんでしたので、いつもの単なる飲み会です。が、今回は写真の一道(レペゼンお寺)も帰ってきていたので、いつもとはちょっと違った世界がありました。最近「もう飲み会で夜更かしはしない！」という目標を立てていましたが、予定通り2時は過ぎましたかね。何を話したかは大して覚えていません。覚えていることはただ、「それにしても男ってのは子どもの頃から何にも変わらねえ〜！」と思ったこと。今日も平和です。



村

民の皆さんには怒られるかもしれませんが、4、5年ぶりに竹の子採りに行きました。長野の老舗のお蕎麦屋さんから「根曲がり竹を売ってくれる人はいませんか？」と連絡をいただき。久しぶりに自分で行ってみるか！となったわけです。僕がいうまでもなく、竹の子採りを舐めちゃあいけま



せん。藪や、虫の攻撃が凄まじいことはもちろん、「遭難」は何よりの恐怖です。地元の山であろうと、夢中になっていると、いとも簡単に迷ってしまいます。ですので、今回はカツユキ名人に連れて行ってもらいました。今年は災害で崩れている所があるので、道路は閉鎖されています。途中からは自転車で向かいました。まあやっぱり、藪の中も入ってさえしまえば楽しいんですよ。藪をかき分け、薄明かりの中、白く輝く竹の子を見つけた時には、まさに「かぐや姫」に出会えたような気持ちになるのです。

◆全員集合！

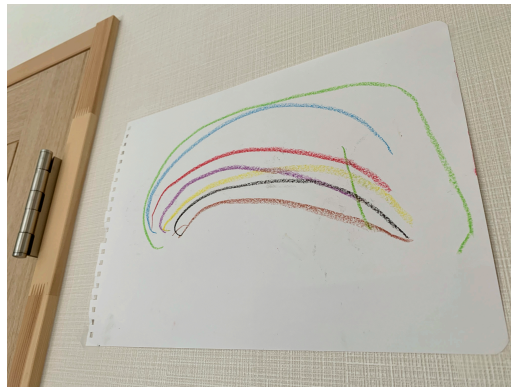
双子の弟の子どもが、ウチの三番目(次男)と昨年の同じ頃に産まれたので、6月にみんなで集まり食事会をしました。この二人の赤ん坊は、双子である父親同士よりもよく似ています。うちの子も奥に写る妻の背中に乗っていますが...見えませんね。お屋はモノミさんの美しいお弁当をいただき、夜はバーベキューです。これといった話をするわけではありませんが、野沢の美味しい空気の中で、みんなそれぞれに、おいしい食事とお酒を楽しんでいるようでした。二人のママさん、いつも子守ありがとうございます！これから野沢と埼玉でそれぞれに大きくなっていくのでしょうが、元気よく育つのだよ、カン、モン！



◆子どもの描く絵。

僕の仕事部

屋にはいつも虹が出ています。ある、素敵なお家に住むお客さんが、お子さんの絵を綺麗に額に入れて飾ってあるのを見て「ああ、これはなんて幸せな気持ちにしてくれるんだろう...。」と、その時しみじみ感



じたのを思い出しました。子どもの絵は、玄関に花を置くように、パッと家の中を明るく、そこにいる人を優しい気持ちにしてくれます。飾らず、好きなように描く。子どもには自然とそれができます。僕の部屋に出ている虹は、その時4歳の息子がダイニングでクレヨンを握りしめ、自分で色を選び「これ、トトにかいたんだよ。」と、プレゼントしてくれました。所要時間は1分ほどでしょうか。笑 部屋で仕事に熱中し、ふとした時、左の壁に掛かるこの虹を見ると、自分のする仕事の「本当の意味」をまた思い出させてくれます。

◆やっぱりなかなか撮らないですね。

乙女の像のところ、がウチの子のお気に入りの遊び場のようです。こども園の帰りには必ず寄りたがります。「ダルマさんがころんだ」に、鬼ごっこ、落ちている木の枝を振り回したりして遊んでいきます。今回、飯山で開催する「ほったらかし資産形成講座」の案内チラシで、家族の写真も載せておこうと思い、スマホの中を探してみますが...見事にありません。それはそうですよね。誰かに頼んで撮ってもらわない限りは。ですのでちょうど良く、その遊び場に近所の先輩も子どもを連れていらっしまったので、カメラマンをお願いしました。5人もいれば「全員がベストスマイル！」は難しいですが、それはそれで自然でいいか。トモヤさん、撮っていただきありがとうございました！

